

物品協賛

〈パンフレット〉

『新潟県の伝統的工芸品』※後半が英語版

提 供：新潟県 産業労働部 地域産業振興課 地場産業振興課



新潟県の
伝統的工芸品

 **新潟県**

新潟県 産業労働部 地域産業振興課
TEL 025-280-5243
FAX 025-280-5278
Email ngt050100@pref.niigata.lg.jp

羽越しな布 (うえつしなふ)

UETSU-SHINAFU



新潟県村上市、山形県鶴岡市との県境の山里において、シナノキ、オオバダイジュ等の樹皮から採れる繊維で糸を作り、布状に織り上げたもので、ざっくりとした手触りと落ち着きのある風合いが特徴です。古くから地域住民の暮らしの中に育まれてきました。(平成17年9月22日指定)

新潟、山形県境の山里で育まれた手業

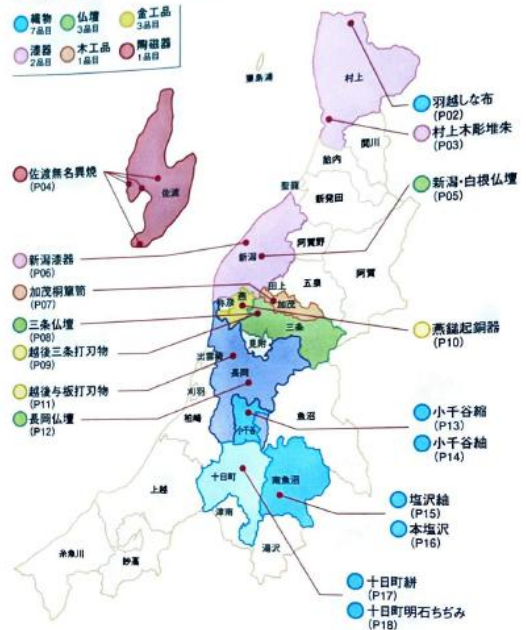
日本の原風景を今に伝える

新潟県村上市にある「さんばく生業(なりわい)の里」では、羽越しな布の織りの見学や焼畑農法で作られた赤かぶの漬物製造など、古くから受け継がれてきた伝統的生業を人々に伝える取組を行っています。古きよき日本。が見学できると口コミで評判が広まり、毎年県内外から多くの人が訪れる活気のある場所です。

主な商品(取扱価格)	
○帯 220,000円～	○バッグ 27,000円～
○ポーチ 4,500円～	
産地組合名	
羽越しな布振興協議会	〒999-7315 山形県鶴岡市関川字南222(関川しるし館センター内) ☎0235-47-2502 既 ☎0235-47-2833
さんばく生業の里企業組合	〒959-3917 村上市山崎田325 ☎0254-76-2115 既 ☎0254-76-2115
雷しなばた保存会	〒959-3916 村上市雷452 ☎0254-76-2456

新潟県の伝統的工芸品

新潟県には、地域の気候風土を生かした様々な工芸品が発達し、今なお脈々と受け継がれています。中でも、経済産業大臣指定の「伝統的工芸品」は、14産地17品目にのぼり、これは全国で2番目の多さです。



伝統的工芸品とは

伝統的工芸品とは、次の要件を全て満たし、「伝統的工芸品産業の振興に関する法律」に基づき経済産業大臣の指定を受けた工芸品のことをいいます。(要件)

- ①主として日常生活で使用する工芸品であること
- ②製造工程の主要部分は手工業的であること
- ③伝統的技術・技法によって製造されるものであること
- ④伝統的に使用されてきた原材料であること
- ⑤一定の地域で産地形成がなされていること

この伝統マークを使った伝統証紙が貼られている工芸品は、産地組合等が実施する検査に合格した経済産業大臣指定伝統的工芸品です。



伝統マーク
RG-191

佐渡無名異焼 (さどむみょういやく)

SADO-MUMYOIYAKI

ref P.II



江戸時代より続く
佐渡島の伝統

江戸時代中期に佐渡奉行に
佐渡産の焼き物が奨励され本
格的な佐渡生まれの施釉陶器
(せゆうとうき)が作られました。
江戸時代後期には無名異土
(むみょういど)と呼ばれる赤土
を混ぜた陶土で茶焼(ちやくや
き)が作られ、これが無名異焼
の始まりと言われています。そ
の後、明治時代に高温で焼成
する堅硬な無名異焼が完成し
現在に至ります。
【令和6年10月17日指定】



無名異焼の特徴と言える無
名異土(赤土)は、酸化鉄を大
量に含んだ赤色の粘土のことを
言います。この無名異土は古く
から止血剤等の薬に用いられ、
佐渡でも薬用として販売され
ていたという謂れもあります。
佐渡では、その無名異土を素
地土に混ぜて赤色の器を作った
ため「無名異焼」として親しま
れるようになりました。

主な商品

○花瓶 ○茶器 ○皿 ○酒器 ○カップ ○箸置き

産地組合名

佐渡無名異焼の会 〒952-1557 新潟県佐渡市相川一丁目1(無名異陶芸伊藤赤水内)
☎ 0259-74-2127



村上木彫堆朱 (むらかみきぼりついしゅ)

MURAKAMI-KIBORI-TSUIISHU

ref P.II



江戸時代に江戸から伝えら
れた技法を基にしています。朴
(ほお・板・もち)・桂(かつら)な
どの木地に繊細な彫刻を施し、
その彫刻をより引き立たせるた
めに、天然の漆のみを使って塗
り重ねるといった独特の塗り技
法を用います。代表的な堆朱は
朱の上塗り(しゅのうずり)に仕上
げ、落ち着いた肌合いが特徴です。
【昭和51年2月26日指定】



組合員による村上木彫堆朱
を一堂に展示販売しています。
館内にはお手軽にご使用いた
だけのお箸や、装身具を始めと
して、茶托や菓子器などの実用
品も多数取りそろえています。
会館は年末年始を除き、ほぼ
無休で来館者をお迎えしてい
ます。(臨時休業あり。事前にお
問い合わせください。)

村上木彫堆朱会館

主な商品 (税抜価格)

○茶托4寸5枚組 牡丹唐草 38,000円～
○鉄鉢型菓子鉢8寸 牡丹 19,500円～
○朝顔型菓子鉢8寸 牡丹 13,500円～

産地組合名

村上堆朱事業協同組合 〒958-0032 村上市松原町三丁目1番17号(村上木彫堆朱会館内)
☎ 0254-53-1745
FAX 0254-53-3053 SNS
✉ tsuishukumiai@aq.wakwak.com
https://tsuishukumiai.jp



新潟漆器 (にいがたしっき)



ref P.II



多彩な塗り
江戸時代の初めに漆器作りが始まったとされています。新潟漆器の特徴は、多彩な塗りです。特に竹塗り、下地の漆に錆で竹の節等を作り、その上に色漆で竹の肌や模様をつけるという他の産地では見られない珍しい塗り、本物の竹と見間違えるほどです。
【平成15年3月17日指定】



新潟漆器を使った暮らしの提案
伝統的な技術を継承しつつ、食器類の商品開発だけでなく、建材やインテリア等にも漆塗りの技術を活かし、他業種との連携を積極的に行っています。

主な商品(税抜価格)

○mitate竹塗箸 5,000円～

※オンラインサイトでのみ販売 <http://niigatasikiki.jp>

産地組合名

新潟市漆器同業組合

〒953-0104 新潟市西蒲区岩室温泉879-9
(新潟漆器製造株式会社内)
☎ 0256-77-5450 0256-77-5451
✉ contact@niigatasikiki.jp
🌐 <http://niigatasikiki.jp>
📄 <https://www.facebook.com/nuridon01>



Traditional Culture

新潟・白根仏壇 (にいがた・しろねぶつだん)

NIIGATA-SHIRONE-BUTSUDAN

ref P.II



県内最大の仏壇産地
江戸時代中期に伽藍師(がらんし)という寺院を建てる専門家が京形の「白木(しらき)仏壇」を作ったのが始まりとされます。後に、独特な技法を用いたほぞ組み作りの木地、本漆塗り、本金仕上げの独自の技法が生み出されました。現在、新潟県内で最も大きい仏壇の産地です。
【昭和55年10月16日指定】



技能の承継
昨今、従業者の高齢化に伴う技能の承継問題が叫ばれる中、組合加盟の事業所の20〜30歳代の若手技術者を対象に、伝統工芸士らによる技能継承事業を積極的に進めています。若手技術者の成長を推し進めることで、今後産地の発展が期待されます。

主な商品(税抜価格)

○100代前開 240万円 ○50代前開 170万円 ○70代前開 210万円

産地組合名

新潟仏壇組合

〒950-0324 新潟市江南区酒屋町547-3(友坂佛壇店内)
☎ 025-280-2236 025-280-2236
✉ haga-fba@ec2.technowave.ne.jp

白根仏壇協同組合

〒950-1217 新潟市南区白根1240-3(新潟みなみ商工会内)
☎ 025-373-4181 025-373-4199
✉ n-minami@shinsyoren.or.jp
🌐 <https://www.niigata-lpc.or.jp/kojebi/butsudan/index.html>

三條仏壇 (さんじょうぶつだん)

SANJO-BUTSUDAN

ref P. III



「仏壇三條」
三條地方は「仏壇三條」と呼ばれるほど仏教の盛んな土地で、江戸時代中期には、北陸随一といわれる堂宇伽藍（どううがらん）を持つ東別院が建てられました。その後、この寺院を中心として浄土真宗が広まり、仏壇の製造が始まりました。塗立（ぬりたて）、梨子地塗（なしじぬり）、木目出し塗等の塗りが特徴です。（昭和55年10月16日指定）



Photo: Tomoyuki Igarashi

新しい折りの空間を創出
三條仏壇×目・空壇
現代アートチーム「目」(me)と連携し、新しい折りのかたち「空壇（くうだん）」を提案しています。既存の仏壇の概念にとらわれないことなく、新たな想像力によって職人の技術や独自の美を引き出し、現代生活に適した新しい仏壇が生まれました。これまでに自宅やオフィス、旅館などに設置され、好評を博しています。

主な商品（税抜価格）

- 50代前開（伝統的工芸品） 180万円～
- 50代前開（従来型） 50万円～
- 30代前開上置型（従来型） 30万円～

産地組合名

三條・燕・西蒲仏壇組合
〒959-1262 燕市水道町1-2-40（高三仏具店内）
☎ 0256-62-3756 〆 0256-62-3756
✉ takasanbutsugou@gmail.com



加茂桐箆笥 (かもきりたんす)

KAMO-KIRI-TANSU

ref P. II



全国最大の桐箆笥産地
加茂産地で桐箆笥が造られるようになったのは、およそ230年以上前の天明年間の頃と言われており、江戸時代の末期に加茂桐箆笥として全国に名を馳せました。桐の木肌のぬくもり、網に例えられる白い艶や柱目（まさめ）の色合いは、家具の最高級品の名にふさわしいものです。（昭和51年12月15日指定）



お客様との直接販売へ
今では全国各地からお客様が直接、各工場を訪れ桐たんすを注文する機会が増えました。桐たんす屋巡り（工場見学）や、桐たんす祭りの開催と、工場とお客様が直接結びつくイベントも開催され、各社のホームページも充実しています。

主な商品（税抜価格）

- 伝統的総桐たんす 和たんす 50万円～100万円
- 伝統的総桐たんす 小袖たんす 40万円～60万円
- モダン桐家具 チェスト 40万円～60万円

産地組合名

加茂箆笥協同組合

〒959-1313 加茂市幸町2-2-4
☎ 0256-52-0445 〆 0256-52-0428
✉ tansu.kumiai@ginzado.ne.jp
🌐 https://www.kamokiritansu.com/

燕鎚起銅

TSUBAME-TSUIKI-DOKI



ref P.III



銅板に生命を吹き込む
江戸時代中期に仙合から技術が伝わり、やかん類の生産が始まりました。鎚起とは鎚(つち)で打ち起(おこ)すという意味で、数百種類に上る金鎚と当て金(あてがね)を使い分け、銅板から立体製品を生む技術です。
表面には化学反応による着色が施されており、使い込むほどに光沢が増すのが特徴です。
〔昭和56年6月22日指定〕



銅の美に魅せられて
コーヒーポット、ワインクーラー等、これまでなかった新たなデザイン商品を次々と世に送り出し、国内外を問わず、大変高い評価を得ています。燕鎚起銅器は決して安価ではありません。しかし使い込むたびに色合いに深みとツヤが増し、道具を育てる楽しみや愛着がわく製品です。

主な商品(税抜価格)

- 急須(400ml) 紫金色
- ぐい呑 刃鑢目黒銀
- ビールカップ 水玉

産地組合名

燕銅器工芸組合 〒959-1244 高市中央通2-21(玉川屋内)
☎ 0256-62-2015 FAX 0256-64-5945
✉ info@gyokusendo.com
🌐 https://www.gyokusendo.com
📺 https://www.facebook.com/gyokusendo



越後三条打刃物

(えちごさんじょううちもの)

ECHIGO-SANJO-UCHIHAMONO

ref P.III



土農具からの進化
農業に必要な道具として、江戸時代の前半頃から鎌、鍬(くわ)等の製造を行い、閑散期の農家の副業として始まった和釘(わくぎ)づくりで産地が形成されていきました。その後、包丁、鉋(かんな)、鑿(のこ)み、木鋏(きばさみ)等、多くの種類の打刃物に発展しました。
〔平成21年4月28日指定〕



「鍛冶道場」
鍛冶体験施設「三条鍛冶道場」では、現役鍛冶職人の指導による刃物づくりの講座等、文字通り鍛冶体験の道場として、毎年県内外から多くの人が訪れています。
小学児童の産業体験場として、毎年市内小学校20校から八百名
余りが「和釘づくり」の体験実習を行います。高校の校外学習として刃物づくりの講座等も行っています。

主な商品(税抜価格)

- 黒刺鉋(けんな) 両刃6寸 26,800円
- 庖丁(ほうちょう) 出刃 10,000円
- 木鋏(きばさみ) 大久保2.5寸 5,000円

産地組合名

越後三条鍛冶集団 〒955-0072 三条市元町11-53(三条鍛冶道場内)
☎ 0256-34-8080 FAX 0256-34-8081
✉ kajidojo@city.sanjo.niigata.jp
🌐 https://kajidojo.com
📺 https://www.facebook.com/sanjokajidojo

長岡仏壇 (ながおかぶつだん)

NAGAOKA-BUTSUDAN



長岡藩の政策により普及
17世紀頃、寺院建設に全国から集まった宮大工や仏師の冬の閑職として始まりました。その後、長岡藩が行った浄土真宗の保護政策、また各家庭で位牌をまつる習慣が定着し、仏壇を求める人が増えたことから広まってきました。高度な彫刻技術と樺戸板(けやきとい)の呂色(ろいろ)仕上げ、三ツ屋根式宮殿が特徴です。
〔昭和55年10月16日指定〕



次世代に託す夢
長岡仏壇の伝統技術・文化を次世代に継承していくため、継続的に地元小学校に赴き、製作体験学習会を実施しています。学習会を通じて、地元児童が長岡仏壇への理解を深めるとともに、将来の後継者の卵として育てていくことで、産地の継続した発展が期待されています。

主な商品

- 100代 三方開 三ツ屋根造
- 50代 前開 三ツ屋根造
- 70代 三方開 六角宮殿入
- 30代 前開

産地組合名

長岡地域仏壇組合 〒940-2035 長岡市閑原町5-5(廣川佛壇店内)
☎ 0258-46-2210 〆 0258-46-2210
✉ butsuko@st.wakwak.com



越後与板打刃物 (えちごよいたうちものはもの)

ECHIGO-YOITA-UCHIHAMONO ref P.III



上杉謙信ゆかりの技術
上杉謙信の家臣が16世紀頃に刀職人を招いて、打刃物を作ったのが起源とされ、刀鍛冶の高度な技術が受け継がれ、江戸中期には太刀道具の産地として名声を誇りました。
与板の打刃物は、火造りの鍛造技法によるもので、その切れ味は抜群です。
〔昭和61年3月12日指定〕



与板鍛冶体験工房
与板鍛冶体験工房では、オリジナル切り出しづくりの体験や、越後与板打刃物の歴史など、古くから受け継がれてきた伝統の技術・技法を多くの人に伝える取組みを行っています。
職人仕様の鍛冶場で、現役鍛冶職人による鍛接鍛造から研ぎまでの工程の熱血指導が好評を得て、県内外はもとより外国から多くの人が訪れています。

主な商品

- のみ
- 鉋(かん)
- 鉋(まさかり)
- 新(ちよう)

産地組合名

越後与板打刃物組合 〒940-2402 長岡市与板町与板甲134-2(与板町商工会内)
☎ 0258-72-2303 〆 0258-72-3328
✉ yoisho@shinsyoren.or.jp
🌐 https://www.tech-nagaoka.jp/traditional/trad001



小千谷紬 (おちやつむぎ)

OJIYA-TSUMUGI

ref P.IV



**小千谷紬から生まれた
多彩な柄模様の紬**

小千谷紬の技法を活かして、江戸時代中期に織り始められた絹織物です。原料は玉糸と真綿の手紡ぎ糸で、絹独特の光沢と肌触りの良さ、軽く温かみのある地風が魅力の絹織物です。手摺(すり込み)による縞縞縞(よこそがすり)の技法を駆使した柄模様は多彩で素朴な味わいがあり、着姿は一段と見映えます。〔昭和50年9月4日指定〕



新しい時代を築くブランド

新たな時代を築く小千谷ブランドとして開発された「Free Town(フリータウン)」は、自由で柔軟な思考・行動をする大人のためのファッションをテーマに、販売展開しています。

「Free Town」には、伝統技術に裏打ちされた、本物の確かさがあります。

主な商品

○小千谷紬(絹着尺地)

産地組合名

小千谷織物同業協同組合

〒947-0028 小千谷市内1-8-25
☎ 0258-83-2329 内線 0258-83-2328
✉ ojiya-ori@carrot.ocn.ne.jp
🌐 https://ojiya.or.jp



小千谷縮 (おちやちぢみ)

OJIYA-CHIJIMI

ref P.IV



**シボが生みだす
清涼感のある麻縮**

小千谷市周辺では古来より苧麻(ちよま)を原料とした麻織物が織られていました。江戸時代初期に改良され、緯(よこ)糸に強い熱(より)をかけ織り上げた後、湯もみを行い独特のシボ(しわ)を出すことで小千谷縮が誕生しました。独特のシボによって肌にベタつかずさわやかな着心地で、優れた通気性と吸湿性を持った清涼感あふれる夏物着尺地です。〔昭和50年9月4日指定〕



**染織部門で日本初の快挙
ユネスコ無形文化遺産登録**

国の重要無形文化財「小千谷縮(小千谷市・越後上布(南魚沼市))」は、平成21年にユネスコの無形文化遺産に登録されました。これはユネスコが伝統芸能や工芸技術等を、世界共通の遺産として保護するため、リスト化しているもので、令和5年1月現在、日本からの登録数は22件にのびります。

当地域の春の風物詩である「雪さらし」は、重要無形文化財「小千谷縮・越後上布」指定工程の1つです。

主な商品

○小千谷縮(麻着尺地)

産地組合名

小千谷織物同業協同組合

〒947-0028 小千谷市内1-8-25
☎ 0258-83-2329 内線 0258-83-2328
✉ ojiya-ori@carrot.ocn.ne.jp
🌐 https://ojiya.or.jp

本塩沢 (ほんしおざわ)

HON-SHIOZAWA



ref.P.IV



「シボ立ち地風の
「塩沢お召し」」
塩沢紬と同様に、国の重要
無形文化財「越後上布」の技
術を応用し、起源は17世紀中
期に遡ります。シボ立ちの独
特な風合いと十字縞・亀甲縞
(きつこうかすり)等で構成さ
れた上品で優美な柄が特徴の
絹織物で、「塩沢お召し」の愛
称で親しまれています。
【昭和51年12月15日指定】



ユネスコ無形文化遺産の
伝承
塩沢産地の伝統的工芸品
の礎となった「越後上布」の伝
承者の養成を行っています。
受講者は、最長で5年にわた
り、糸繰りや製織等を実習形
式で学び、伝統技術を習得し
ていきます。
ユネスコ無形文化遺産の登
録を契機に、今後も伝承者が
増えていくことが大いに期待
されています。

主な商品

○本塩沢(絹着尺地)

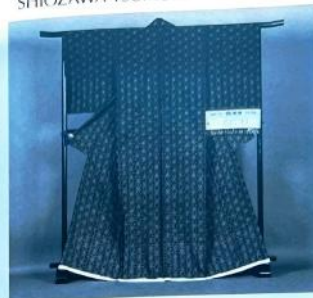
産地組合名

塩沢織物工業協同組合 〒949-6435 南魚沼市目来田107-1
☎ 025-782-1127 025-782-1128
✉ shiozawarimono@wine.ocn.ne.jp
https://www.facebook.com/shiozawarimono/

塩沢紬 (しおざわつむぎ)

SHIOZAWA TSUMUGI

ref.P.IV



蚊拵(かがすり)と
呼ばれる繊細な拵模様
ユネスコ無形文化遺産に登録
されている国の重要無形文化財
「越後上布」(麻織物)の技術・
技法を絹織物に受け継ぎ、18世
紀後半に誕生した塩沢紬は、真
綿特有のやわらかさと蚊拵(か
がすり)と呼ばれる繊細な拵模
様が特徴で、独特な上品さと落
ち着きを兼ね備えています。
【昭和50年2月17日指定】



児童教育による
産地の活性化
伝統工芸士を地域の学校に
派遣し、地元児童に塩沢紬・本
塩沢の歴史説明や製品、製造
工程に直接触れる機会を提供
しています。
児童の伝統文化に対する理
解と関心を少しずつ高め、産地
の活性化を図る重要な取組と
なっています。

主な商品

○塩沢紬(絹着尺地)

産地組合名

塩沢織物工業協同組合 〒949-6435 南魚沼市目来田107-1
☎ 025-782-1127 025-782-1128
✉ shiozawarimono@wine.ocn.ne.jp
https://www.facebook.com/shiozawarimono/

十日町絣 (とおかまちがすり)

TOKAMACHI-GASURI

ref P.IV



繊細な絣模様を表現
伝統的な越後縮(麻織物)の技法を受け継ぎ、19世紀中頃に絹織物に転用して誕生しました。縮絣と横縞を自在に駆使して表現する繊細な絣模様が、絹の光沢と結びついて落ち着いた風合いを出します。先染織物の代表作品として愛されています。
【昭和57年11月1日指定】

全国有数の
きもの総合産地

十日町絣、十日町明石ちぢみ等の先染め商品の産地であった十日町は、昭和30年代後半から、産地独自の「工場」(養生産)による後染めの友禅商品を開発し、全国有数のきもの総合産地として発展しました。後染め技法である「十日町友禅」による振袖や訪問着は、令和4年5月に「新潟県伝統工芸品」に指定されました。

主な商品

○十日町絣(絹着尺地)

産地組合名

十日町織物工業協同組合 〒948-0003 十日町市本町6 クロスステン4階
☎ 025-757-9111 図 025-757-9116
✉ t.orikumi@mail.tisara.or.jp
🌐 https://www.tokamachi-orikumi.or.jp

17

十日町明石ちぢみ (とおかまちあかしちぢみ)

TOKAMACHI-AKASHI-CHIJIMI

ref P.IV



夏着尺の代表
19世紀のはじめ、伝統的な越後縮(麻織物)の技法を絹に転用して創製された遠縁縮(すきやおり)を源流としています。横糸に強燃(きょうねん)を加え、湯もみをして独特の「しぼ」をつくり出しますが、清涼感あふれるシャリとした薄地風が最大の特徴です。
【昭和57年11月1日指定】

きものを体感
イベントや施設が充実

十日町産地では、春の「きものまつり」、夏の「民謡流し」、秋の「総合新作発表会」、冬の「雪まつり」など四季折々のイベントを通じて着物を発信しています。また、工房見学、製作体験や着付体験などは随時受け入れています。



主な商品

○十日町明石ちぢみ(夏用絹着尺地)

産地組合名

十日町織物工業協同組合 〒948-0003 十日町市本町6 クロスステン4階
☎ 025-757-9111 図 025-757-9116
✉ t.orikumi@mail.tisara.or.jp
🌐 https://www.tokamachi-orikumi.or.jp

18

● SANJO-BUTSUDAN

Area: Sanjo-shi, Tsubame-shi, Niigata-shi

There are FIVE special artisans on each process, wood works, carving, metal works, *urushi* (lacquer) painting and drawing. This is a common way among three Butsudan manufactures in Niigata. Their techniques of making metal fittings are highly praised in Sanjo and Tsubame.



Sanjo-Tsubame-Nishikan Butsudan Association c/o Takasago Shop
1-2-40 Suido-cho, Tsubame-shi 959-1262
☎ FAX 0256-62-3756 ✉ takasanbutsugu@gmail.com

● ECHIGO-SANJO-UCHIHAMONO

Area: Sanjo-shi

Many of blade producers of large and small (blacksmith) have set up workshops in Sanjo. The sharp knives are also used by internationally acclaimed chefs all over the world.



Member of Echigo Sanjo Blacksmith Group c/o Sanjo Blacksmith Training Hall
11-53 Motomachi, Sanjo-shi 955-0072 ☎ 0256-34-8080 FAX 0256-34-8081
✉ kajidojo@city.sanjo.niigata.jp ☎ https://kajidojo.com
☎ https://www.facebook.com/sanjokajidojo

● TSUBAME-TSUKI-DOKI

Area: Tsubame-shi

Tsuki is a metal working technique that is derived from the words 'hammer' (鋤 *tsui*) and 'raise' (起 *ki*). Various types of hammers and anvil stakes are used by artisans in this discipline. After shaping is complete, the piece is individually colored using oxidation methods developed over many generations.



Tsubame-doki Industrial Arts Association c/o Gyokusendo
2-2-21 Chuo-Dori, Tsubame-shi 959-1244 ☎ 0256-62-2015 FAX 0256-64-5945
✉ info@gyokusendo.com ☎ https://www.gyokusendo.com/en/
☎ https://www.facebook.com/gyokusendo

● ECHIGO-YOITA-UCHIHAMONO

Area: Nagaoka-shi

Echigo-yoita-uchihamonono is famous for its excellent carpentry tools. The original technique came from making samurai swords. Nowadays, the unique products are used globally.



Echigo-yoita-uchihamonono Association c/o Yoita-machi Business and Industry Society
134-2 Yoita-ko, Yoita-machi, Nagaoka-shi 940-2402
☎ 0258-72-2303 FAX 0258-72-3328 ✉ yoisho@shinsyoren.or.jp
☎ https://www.tech-nagaoka.jp/traditional/trad001

● NAGAOKA-BUTSUDAN

Area: Nagaoka-shi, Ojiya-shi, Tokamachi-shi

It was in the middle of the 17th century when household Buddhist altars became common fixtures in the homes of ordinary families. Butsudan could last over 100 years by repairing each part separately. *Nagaoka-butsudan* is characterized by their highly developed expertise in wood carving for its 3D effect.



Nagaoka Area Butsudan Association c/o Hirokawa Butsudan Shop
5-5 Sekihara-cho, Nagaoka-shi 940-2035
☎ FAX 0258-46-2210 ✉ butsuko@at.wakwak.com

● OJIYA-CHIJIIMI

Area: Ojiya-shi, Nagaoka-shi, Tokamachi-shi

Ojiya-chijimi, originated from *Echigo-asafu* (hemp cloth), has been officially recognized as 'Important Intangible Cultural Heritage' by The Minister of Education, Culture, Sports, Science and Technology since 1955, and has also been listed as UNESCO Intangible Cultural Heritage in 2009. You may see the woven cloth rolled out in the finishing process, which makes the garment cool in the summer.



● OJIYA-TSUMUGI

Ojiya-tsumugi uses *Ojiya-chijimi* technique. It has a texture and luster particular to silk. You can enjoy viewing weaving and experience simple plane weaving on a loom at the center below.



Ojiya Woven Textiles Professional Cooperative Association
1-8-25 Jonai, Ojiya-shi 947-0028 ☎ 0258-83-2329 FAX 0258-83-2328
✉ ojiya-ori@carrot.ocn.ne.jp ☎ https://ojiya.or.jp

● SHIOZAWA-TSUMUGI

Area: Minamiuonuma-shi

It is based on the *Echigo-jofu* (hemp cloth) style silk weaving. *Echigo-jofu* has been officially recognized as 'Important Intangible Cultural Heritage' by The Minister of Education, Culture, Sports, Science and Technology since 1955, and has also been listed as UNESCO Intangible Cultural Heritage in 2009. As the craftsmen are committed to hand the technique down to the next generation, local elementary school children are taught the process of making *Echigo-jofu*, and can participate in a part of the making in each season.



● HON-SHIOZAWA

It has creases characteristic to *Hon-shiozawa* silk cloth. It is an elegant weave, characterized by its minute pattern of cross-shaped or tortoise shell as *Shiozawa-tsumugi*.



Shiozawa Woven Textiles Industry Cooperative Association
107-1 Mokuraiden, Minamiuonuma-shi 949-6435
☎ 025-782-1127 FAX 025-782-1128 ✉ shiozawaorimono@wine.ocn.ne.jp
☎ https://www.facebook.com/shiozawaorimono/

● TOKAMACHI-GASURI

Area: Tokamachi-shi, Tsunan-machi

The exquisite patterns are created with the *Kasuri* technique. Each thread of silk is dyed with a specific pattern in order to produce beautiful traditional cloths as well as gorgeous contemporary ones.



● TOKAMACHI-AKASHI-CHIJIIMI

Area: Tokamachi-shi

Tokamachi-akashi-chijimi cloth is distinctive with a beautiful crinkled texture. The almost see-through look makes a lovely summer kimono. Tokamachi is one of the largest kimono cloth production areas in Japan. It is known for fabrics which are dyed before and dyed after woven. A big kimono festival is held on 3rd May every year. You can enjoy wearing kimono and visiting a local flea market.



Tokamachi Woven Textiles Industry Cooperative Association
4th Floor 6 Hon-cho, Tokamachi-shi 948-0003 ☎ 025-757-9111 FAX 025-757-9116
✉ torikum@mail.tara.or.jp ☎ https://www.tokamachi-orkumi.or.jp

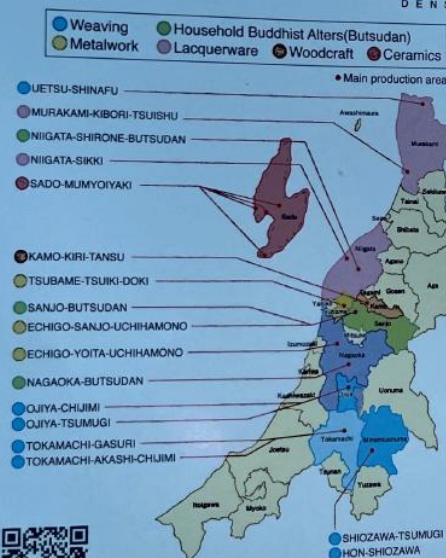
Traditional Craft Products of NIIGATA Designated by Ministry of Economy, Trade and Industry

Japan has been home to a variety of crafted items used in everyday life since ancient times, each using materials, skills, and technology unique to each region and passed down from one generation to the next. Among these regional crafts, 243 items have been officially recognized and awarded the status of Traditional Craft by the Ministry of Economy, Trade and Industry as of October 2024. Niigata has the 2nd largest concentration of Traditional Craft Products in Japan. Currently, 14 regions produce 17 different items.

Items legally designated as a Traditional Crafts must be:

- primarily used in everyday life.
- primarily hand-made.
- made with traditional skills and techniques that have been in use for over 100 years.
- made with the same materials that were used historically

Products that meet these requirements are designated Traditional Crafts and may use the Traditional Craft mark on their label.



Traditional Crafts in NIIGATA
<https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/chilikishinko/1356804126082.html>

UETSU-SHINAFU Area: Tsuruoka-shi, YAMAGATA Murakami-shi, NIIGATA

Shinafu has been woven in Uetsu region since the Jomon (ca.10,000B.C.-400B.C.) and Yayoi (ca.300 A.C.) era. The cloth is woven with linden bark fiber. It is regarded as one of the three oldest woven cloths in Japan.

Sangoku Nariwai no Sato Industrial Union
325 Yamakumada Murakami-shi, NIIGATA 959-3917
TEL 0254-76-2115 <http://www.watune.ne.jp/~sangokushokairi/nariwai/nariwainosato.html>

MURAKAMI-KIBORI-TSUISHU Area: Murakami-shi

Murakami-kibori-tsuishu is famous for its wood carving and red lacquered finish. The matt surface is very unique to the product. You can enjoy its polished effect as it becomes glossier for a longer use.

Murakami-tsuishu Cooperative Association c/o Murakami-kibori-tsuishu Center
3-1-17 Matsubara-cho, Murakami-shi 958-0032 TEL 0254-53-1745 FAX 0254-53-3053
tsuishukumia@aq.wakwak.com <https://tsuishukumia.jp>
<https://www.facebook.com/村上増来事業協同組合-1608090169282294/>

SADO-MUMYOIYAKI Area: Sado-shi

Sado-mumyoyaki is made from red clay with a high iron oxide content from Sado Island, and the process began in the early 19th century with Raku ware made from red clay, and was completed in the Meiji era (1868-1912) with today's very hard Mumyoyaki, which is fired at high temperatures.

Sado Mumyoyaki Association c/o Mumyoi Ceramics Ito Sekieui
1-1 Aikawa, Sado-shi 952-1557 TEL 0259-74-2127

NIIGATA-SHIRONO-BUTSUDAN Area: Niigata-shi

Butsudan is a Buddhist household altar, which contains an image of Buddha and the family ancestral mortuary tablets. Niigata-Shirone is known for producing lavishly decorated Buddhist altars, and the largest production area in Niigata.

Niigata-butsudan Association c/o Tomosaka Butsudan Shop
547-3 Sakaya-cho, Konan-ku, Niigata-shi 950-0324 TEL 025-280-2236
haga-fba@ec2.technowave.ne.jp

Shirone-butsudan Cooperative Association c/o Niigata Minami Business and Industry Society
1240-3 Shirone, Minami-ku, Niigata-shi 950-1217 TEL 025-373-4181 FAX 025-373-4199
<https://www.niigata-ipc.or.jp/kogei/butsudan/index.html>

NIIGATA-SHIKIKI Area: Niigata-shi, Kamo-shi

It has been said that the Niigata style lacquerware was started in the early Edo period. Although various lacquering techniques have been practiced, the region still continues to specialize in take-nuri, the perfect reproduction of bamboo through lacquering. It is only practiced in this area.

Niigata-shi Shikki Trade Union c/o Niigata Shikki Manufacturing
879-9 IwamuroOnsen, Nishikan-ku, Niigata-shi 953-0104
TEL 0256-77-5450 FAX 0256-77-5451 contact@niigatasikki.jp
<http://niigatasikki.jp> <https://www.facebook.com/nuridon01>

KAMO-KIRI-TANSU Area: Kamo-shi

Due to the high humidity in Japan, the chest is made of kiri (paulownia). Since olden times, it is considered an ideal material for containers in which you can keep expensive clothes such as cashmires, wools and silks. The chest is famous for keeping the temperature and its moisture contents at a certain level so that it can protect goods even in fire.

Kamo-tansu Cooperative Association
2-2-4 Sawai-cho, Kamo-shi 959-1313 TEL 0256-52-0445 FAX 0256-52-0426
tansukumia@ginzado.ne.jp <https://www.kamokiritansu.com/>



Traditional Crafts of NIIGATA



NIIGATA
PREFECTURE

**Regional Industry
Promotion Division**
Department of Industry and Labor

TEL 025-280-5243

FAX 025-280-5278

Email ngt050100@pref.niigata.lg.jp